

インターンシップ型農業・農村総合活性化戦略プロジェクト

●これまでの成果

●2018年度から2020年度の3年間、「大学等の復興知を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業（一般枠）」において、『福島県浪江町における農業“新興”に向けた取り組み～担い手育成に向けた取り組み～』というテーマを掲げて、新規就農を中心とする「担い手育成」に取り組んできました。

【具体的成果】

書籍化：
●東京農業大学では、学内で連携する相馬市プロジェクトの成果として『東日本大震災からの農業復興支援モデル-東京農業大学10年の軌跡-』ぎょうせい、2021年3月が刊行された

●本学が有する6次産業化の人材育成のノウハウや実践事例を収録したテキスト『6次産業化の地平』を発行し、『北海道農業のトップランナーたち』をサブテキストとして、プロジェクトへの参加学生に貸与し「復興浪江学」で参加学生の知識向上や担い手育成につなげることができた。

メディア：

●6次産業化推進の成果として、学生が収穫した米を「浪江復興米」として道の駅で販売体験を行い、浜通り地域の農業復興の象徴として地域・全国・海外へと発信できた（2度にわたり「NHKワールドJAPAN」で放映）。このことは、農林水産省の『食料・農業・農村白書』にもトピックスとして取り上げられた。

人材育成：

●劇舞台ファームの協力のもと、2020年10月に大学生30名が津波被害を受けた棚塩地区において10年ぶりの稲刈りを体験し、高性能のコンバインや農業散布用のドローンの操縦体験を行うことで、将来的な担い手育成に向けての技能向上につなげることができた。
●本学学生2名が本プロジェクトの「復興酒」企画で連携する鈴木酒造店（浪江町）に就職し、本学の建学の理念である「人物を畑に還す」地域への人材輩出につなげることができた。

～プロジェクトに参加した学生の声～

私は今年度の復興プロジェクトに参加して福島の復興と地域活性化の両方について学ぶことができた。浪江町の復興プロジェクトへの参加は考えた時にインターンシップ型農業実践講座の1つ目の研修内容で決まりました。浪江町の復興プロジェクトに参加して感じたことは、浪江町の復興プロジェクトへの参加は考えた時にインターンシップ型農業実践講座の1つ目の研修内容で決まりました。浪江町の復興プロジェクトに参加して感じたことは、浪江町の復興プロジェクトへの参加は考えた時にインターンシップ型農業実践講座の1つ目の研修内容で決まりました。

浪江町の復興プロジェクトに参加して感じたことは、浪江町の復興プロジェクトへの参加は考えた時にインターンシップ型農業実践講座の1つ目の研修内容で決まりました。浪江町の復興プロジェクトに参加して感じたことは、浪江町の復興プロジェクトへの参加は考えた時にインターンシップ型農業実践講座の1つ目の研修内容で決まりました。

●ペピーノの栽培、6次産業化支援プロジェクト



●花苺 (kaiji) の栽培農業支援プロジェクト



●エゴマ栽培支援プロジェクト

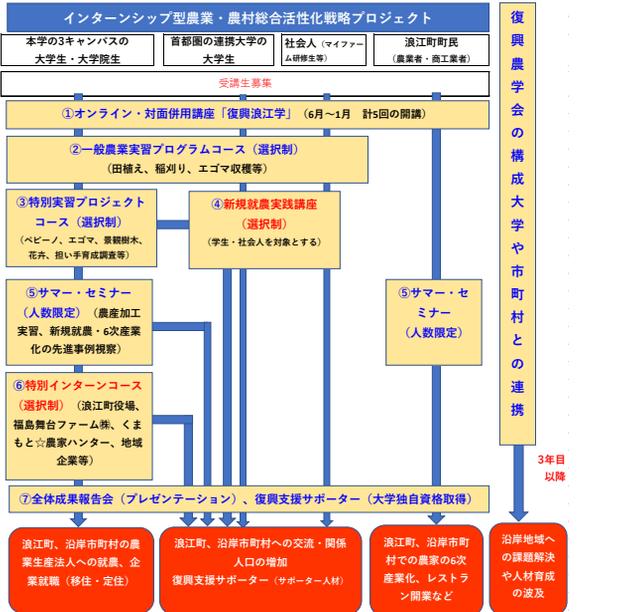


●事業概要

●2018年度から2020年度の3年間を通じて、浪江町の農業“新興”にむけた様々なプロジェクトを展開してきたが、やはり浪江町の復興においては、地域農業の「担い手」の確保・育成が重要であることが、より明確となった。そこで本事業ではこの課題にチャレンジすべく、多様な担い手を「インターンシップ」を通じて確保することを主要テーマとし、『インターンシップ型農業・農村総合活性化戦略プロジェクト』とした。

●プログラムへの6割以上の参加やプレゼンテーションの実施・修了を条件として、大学独自の資格として「復興支援サポーター」の称号を学長名で授与する。
→ 復興支援サポーターは年間20名以上輩出し、福島沿岸地域への交流人口・関係人口の拡大につなげる。

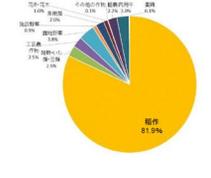
●事業の3年目以降は、人材育成事業の成果を横展開するため、「復興農学会」を構成する大学や市町村との連携によって、農業の担い手育成のプログラムを普及させ沿岸部地域の地域課題の解決に貢献する。



●浪江町の復興状況

●震災前の農業の概況

町内農家の主要品目割合（販売金額ベース）



●震災後の農業の概況

【浪江町の農業概況】

区分	H20	H21	H22	H23	R1	R2
水稲	2,229ha	2,299ha	2,729ha	27,279ha	27,279ha	27,279ha
畑作	1,070ha	1,070ha	1,070ha	1,070ha	1,070ha	1,070ha
畜産	1,070ha	1,070ha	1,070ha	1,070ha	1,070ha	1,070ha
水産	1,070ha	1,070ha	1,070ha	1,070ha	1,070ha	1,070ha
その他	1,070ha	1,070ha	1,070ha	1,070ha	1,070ha	1,070ha
計	6,509ha	6,509ha	6,509ha	6,509ha	6,509ha	6,509ha

●米

2018（平成30）年に6haの米が栽培され、19年は27ha、2020年には89haにまで拡大でき、2021年9月には収穫した米（もみや玄米）を保管するカントリーエレベーターが稼働した。2021年度は約180haの水稲作付面積が見込まれることになっており、一気に2倍に加速することになっている。
→ かつての状態に比べ、カバー率は2割に達しておらず、さらなる宮農再興の加速化が求められている。

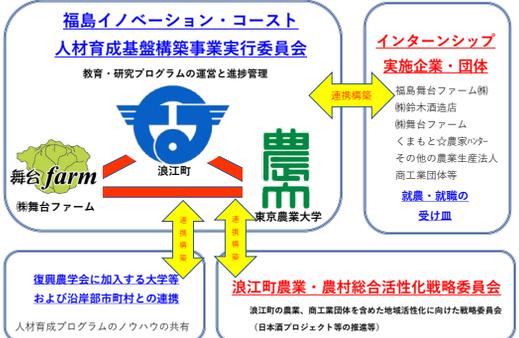
●米以外

トルコギョウ、エゴマ、タマネギ等の栽培が行われているが、面積としては44haに止まっている。

●浪江町の農業の担い手

農作業は「出張農業」とならざるを得ない状況が続いている。
→ 「担い手育成」に向けた人材の育成・定着を行わないと、耕作放棄地の拡大につながりかねない状況になっている。

●地域との連携体制



●5年間の人材育成目標

- 大学生・大学院生の卒業後の浪江町および沿岸地域への移住・定住による新規就農者（農業生産法人への就職も含む）、商工業への就職者といった人材確保と定着（5年間で9名）
- 復興支援サポーター年間20名以上の輩出 → 福島沿岸地域への交流人口・関係人口の拡大

●今年度の活動内容と課題

- ① 新規就農実践講座（年3回）
- ② 復興浪江学（年3回）
- ③ 一般農業実習プログラムコース（収穫体験等）
- ④ 特別インターンコース（夏期未実施）
- ⑤ 特別実習プログラムコース（ペピーノ等）
- ⑥ 全体成果報告会（シンポジウム）



エゴマの収穫作業



獣害対策用フェンス設置

●2年目の事業内容・方向性

- 人材育成のための教育・研究プログラム活動に加えて、以下の地域企業連携プロジェクトを展開
- 「浪江復興米」の高付加価値化を目指した日本酒開発プロジェクト
 - ペピーノ加工品プロジェクト
 - オーベルジュレストランプロジェクト



高付加価値化

